

協会インタビュー

化粧品原料として昨年から注目が集まるEGF（ヒトオリゴペプチド-1）。06年に7月に発足したNPO日本EGF協会の会長の辻大作氏に協会の活動内容を聞いた。

—協会の主な活動内容について？

辻 日本EGF協会は、美と健康に関心を持つ一般の市民を対象に肌本来の力を助け、新しい皮膚細胞の生産を促進する細胞再生因子EGF（ヒトオリゴペプチド-1）を配合した化粧品及び一般化粧品についての正しい知識の普及と有益な情報の提供を医療関係者、学術研究者、美容関連業者らとともに協力しながら行うことを通じて、消費者の保護に寄与し、多くの人々が安全で快適な暮らしを送ることが出来るような社会を構築することを目的としています。主な活動内容としては特定非営利活動に係る事業として、①EGF配合化粧品を含めた一般化粧品の検証事業や情報提供事業、②セミナー、講演会事業、そして法人推奨シール（品質保証マーク）発行事業などを行っています。

—団体の会員数の推移は？

当協会の会員とは協会認定EGF化粧品のPBブランド販売会社のことで、07年7月時点で26社です。

—今一番注力していることは？

その他事業で得た資金を元に、国内、海外の有識者、科学者、大学等に対して原料の無償提供を行い、原料が高価なためになかなか実行出来なかったEGF並びにFGF-1、FGF-7の健康な皮膚に対する生理応答臨床実験を行うことに注力しております。また新規事業として今年9月以降から当協会認定商品の正規取扱店に対して認定証の発行を行います。

—現状と課題、今後の課題について？

EGF協会が認定していないもののなかで、安全性や生理活性を担保するデータのないEGF原料及び商品が国内に出回ったり、単に高配合濃度を謳う化粧品が販売されたりしているケースが増えてきております。中には何の根拠もなく化粧品の範囲を逸脱した広告を打ち出す業者もあり、これらに対して協会への一般消費者からのお問い合わせもかなり増えてきております。今後は行政との連絡会を設け、消費者の方からの報告を参考にし悪質業者への注意勧告、排除に努めたいと考えております。

今後はEGFのみならず、化粧品原料として使用可能になったFGF-1、FGF-7の啓発活動と正しい知識の普及活動に勤めてまいります。



同協会が発行する認証マーク